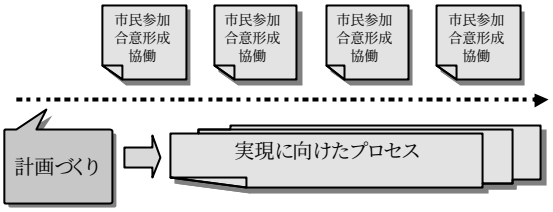
河川整備計画への市民参加と協働プロセス
いい川・いい川づくりに向けて

株式会社吉村伸一流域計画室
吉村伸一

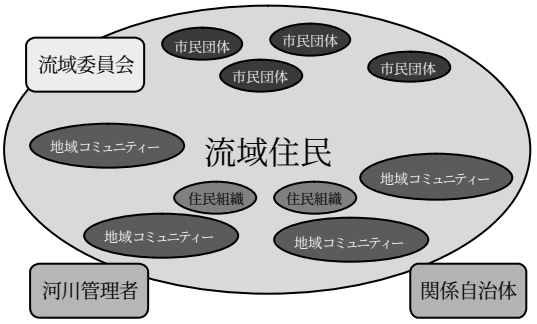
河川整備計画への市民参加

30年間というスパンで考える

状況の変化／主体の変化／個別の合意形成

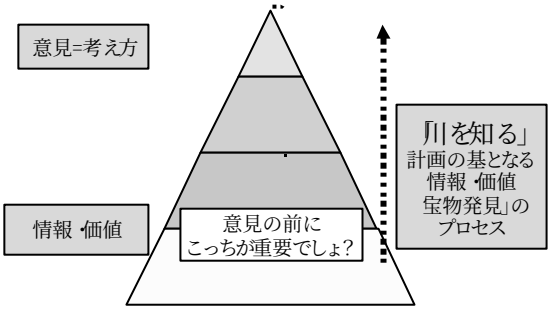


市民参加・計画策定の枠組み
いろんなアンテナ・仕組みが必要

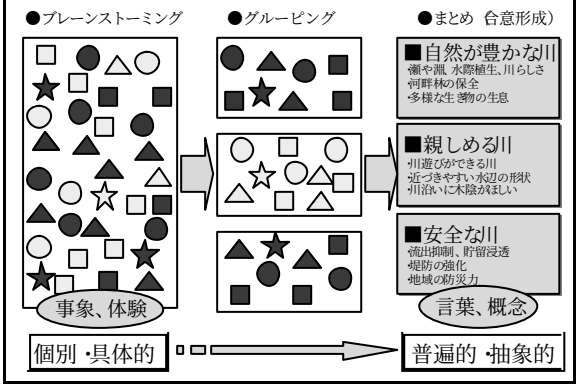


具体的な情報こそが重要

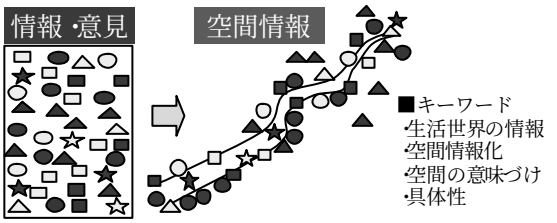
市民参加に関する既成概念
意見を出し合う・意見をまとめる・意見を反映する



ワークショップ（KJ法）の一般的なまとめのプロセス



個別具体の情報意見を地図化する

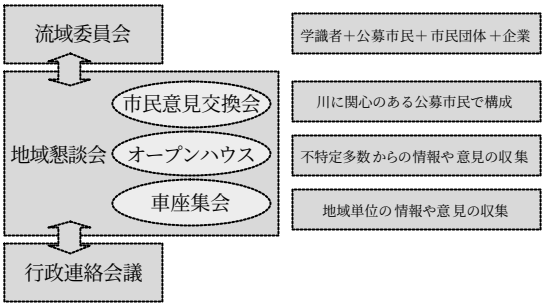


- ●情報意見を空間に配置することで意味づけられた情報に変換される
- ●個別ばらばらな情報もその配置関係で傾向をつかむことができる
- ●抽象的な言葉ではなく具体的な場所が明らかになる
- ●どこで何をしたらいいか、具体的な施策や事業をイメージしやすい
- ●情報はすべて取り上げられている（抽象化されていない）
- ●新しい視点が発掘される

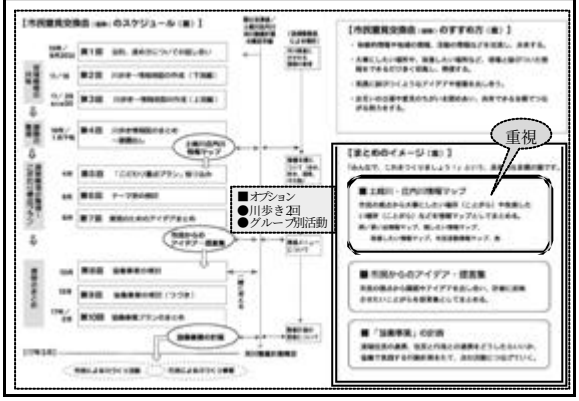
河川整備計画プロセスへの参加
大事にしたいこと

- ●情報（生活世界から見た川の豊かさ（価値）の収集に力点を置く
- ●具体の施策や事業に反映するための「情報化」に工夫を凝らす
- ●個別具体の情報意見から創造的なアイデアを見いだす
- ●「参加のプロセス」が「計画のプロセス」になるようプログラムを組む

土岐川庄内川コレカラプロジェクト

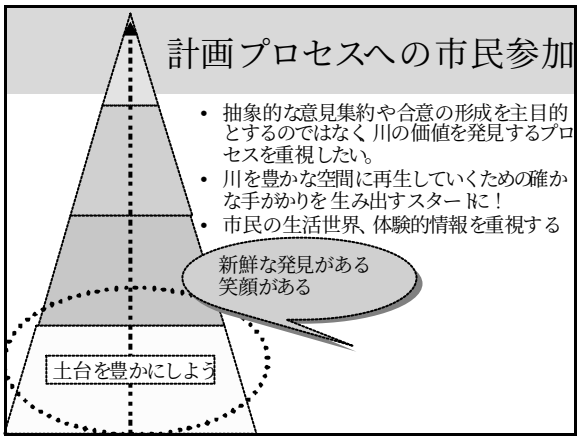


土岐川庄内川市民意見交換会／全体プログラム



計画プロセスへの市民参加

- 抽象的な意見集約や合意の形成を主目的とするのではなく川の価値を発見するプロセスを重視したい。
- 川を豊かな空間に再生していくための確かな手がかりを生み出すスタートに！
- 市民の生活世界、体験的情報を重視する



価値衝突の少ない複数の解決案
Less Conflicting Solutions
LCS :寛容の合意形成

安全学」（青土社）村上陽一郎

- 最適解、唯一解という考え方を捨てる。
- 今の選択は、とりあえず当面価値衝突の比較的少ないと思われるものでしかないことを容認しあう。
- もっと価値衝突の少ないと思われる別の案に乗り換えられる余地を残していることを容認しあう。